

広報見聞録

64年の歴史に幕を閉じる
～北海道瀬棚商業高等学校閉校記念式典～

Koho - kenbunroku



△生徒代表2名から、高橋町長へ校旗が返納されました。

◁学校の変遷を11人の在校生が発表しました。

2月9日、北海道瀬棚商業高等学校閉校記念式典が行われました。

在校生、卒業生、父母、旧教職員など関係者約200名が出席。記念式典では、生徒11人が定時制水産科から、全日制情報ビジネス科までの64年間の変遷を発表し、生徒会長福士俊さんの生徒代表挨拶の後、校旗が返納されました。

瀬棚商業高等学校は、働きながら学ぼうとする若者の育成、社会で実践力となる知識や技能の修得のための商業教育、情報化社会に対応するために必要な最新機器を活用したビジネス教育、様々な社会の変化に対応し地域のニーズに応えながら、形を変え特色ある学校づくりに取り組み、約1,400人の卒業生を送り出しました。

この後、3月1日に卒業生11人を送り出し、高等教育の役割を果たした瀬棚商業高等学校も「卒業」します。



閉校式が行われた体育館は、校舎改築の時に間仕切りし教室として使われていました。それぞれの思い出を胸に、ピアノの伴奏による校歌斉唱では、涙ぐむ卒業生（写真左）、旧教職員（写真上）も…。

編集後記

▼今月は、たくさんの卒業生を送り出した瀬棚商業高等学校が閉校になることから、その卒業生を中心に、今の思いを聞かせてもらいました。▼仕事に對しても生き方に対して自分なりの考えを持ち、このせたな町の良きと思うことも嫌だと思つことも受け止める。▼お話を聞かせてもらっても限られた文字数の中で紹介しなければなりません。今回協力してくれた皆さんの思いも、一部分しか紹介できませんでしたが、この町を支えている若い人の話は、考え方が硬くなっている私には、気付けられたことが多くあり、「聞く」ということの大切さを改めて感じさせてくれました。▼今後、皆さんにもお話を聞かせていただく機会があると思いますので、その節はどうぞよろしくお願ひします。（濱登）

